

⑨茶農協再編後、特色ある茶生産へ転換 【株式会社うしお（菊川市）】

生産性向上

■活用した事業

「産地生産基盤パワーアップ事業（令和元年度補正）」を活用し、大手ドリンクメーカー専用ペットボトル飲料及びティーバッグ用原料荒茶生産工場を整備

■経営の概況

菊川市潮海寺地区の2つの茶農業協同組合（潮海寺共栄茶農業協同組合、潮海寺茶農業協同組合）が合併し、2020年株式会社うしおを設立。

受益圃場面積は約60ha。受入生葉は一番茶、二番茶、台切番茶、秋冬番茶。品種は主に「やぶきた」。

年間における原料生産量は約250トン、稼働日数は約60日。JGAP認証工場。

■取組内容

茶農家の高齢化や茶価の低迷による収入減を理由に離農者が増加し、共同製茶工場の存続が難しくなった時、地元JAから合併・株式会社への組織変更について提案があり、実現した。

従来のリーフ茶の需要が減少する一方で、需要の高いペットボトル飲料及びティーバッグ用の専用工場の施設整備（建物及び機械設備一式）を行った。

2021年の一番茶シーズンから大手ドリンクメーカー向けのペットボトル飲料及びティーバッグ用に原料茶葉を供給する専用工場として稼働を開始した。

今後は、茶園管理の組織化や外部の生葉を受け入れることも視野に入れ、増産に取り組んでいく予定。



茶工場外観



茶園の様子



代表取締役（右側）と社員